

# 新たな次元の ローカリゼーションの価値を実現

講演者:



ヴィンセント ヘンダーソン  
戦略担当バイス プレジデント (言語 AI)  
ライオンブリッジ

# AI は責任を持って使用しなければならない



目標の達成

さらなる成果の達成

AI を目標の達成  
に役立てるための  
フレームワーク



コンテンツ目標の定義

コンテンツ目標の達成

目標が何であることを確認  
し、それを確実に管理する  
ためのフレームワーク

# AI は責任を持って使用しなければならない



目標の達成

さらなる成果の達成

## TRANSPARENT (透明性)

AI システムの運用と意思決定プロセスにおける検証可能性と説明責任を確保します。

## RELIABLE (信頼性)

AI システムの安定的な稼働を維持し、エラーや不正操作に対処できる体制、機能を整備して、高い安全性基準を満たすようにします。

## USEFUL (有用性)

個々の具体的な目的の達成に役立ち、人間の活動に付加的価値をもたらす AI システムを提供します。



コンテンツ目標の定義

コンテンツ目標の達成

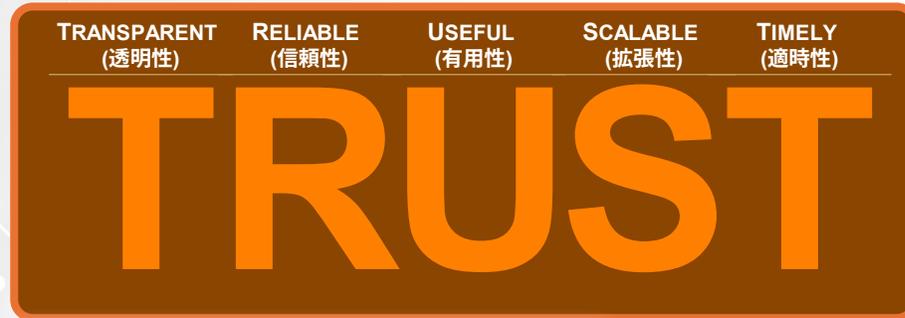
## CONTROL (管理)

エンゲージメントとコンテンツ品質のデータを自動収集することで、コンテンツの仕様に関する意思決定を支援します。

## HUMAN-IN-THE-LOOP (人間参加型)

AI ファーストのプロセスを人間の監視とインサイトによって制御、監督、調整し、すべてのステップを最適化します。

# AI は責任を持って使用しなければならない



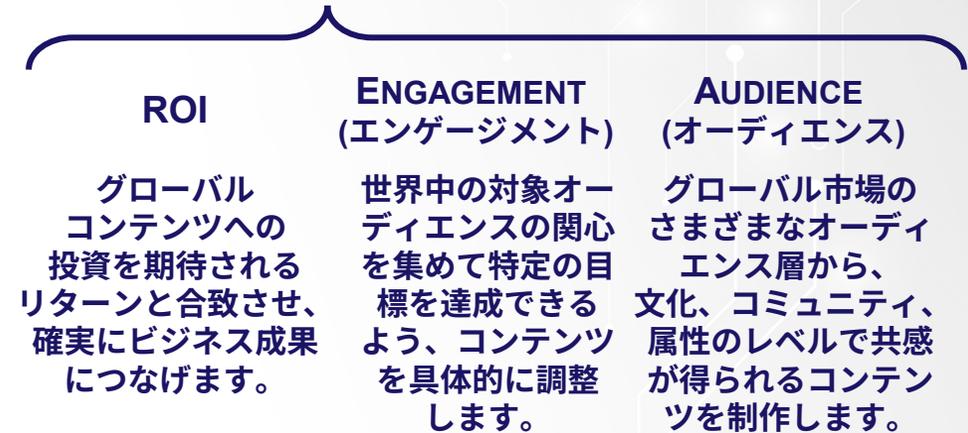
目標の達成

さらなる成果の達成

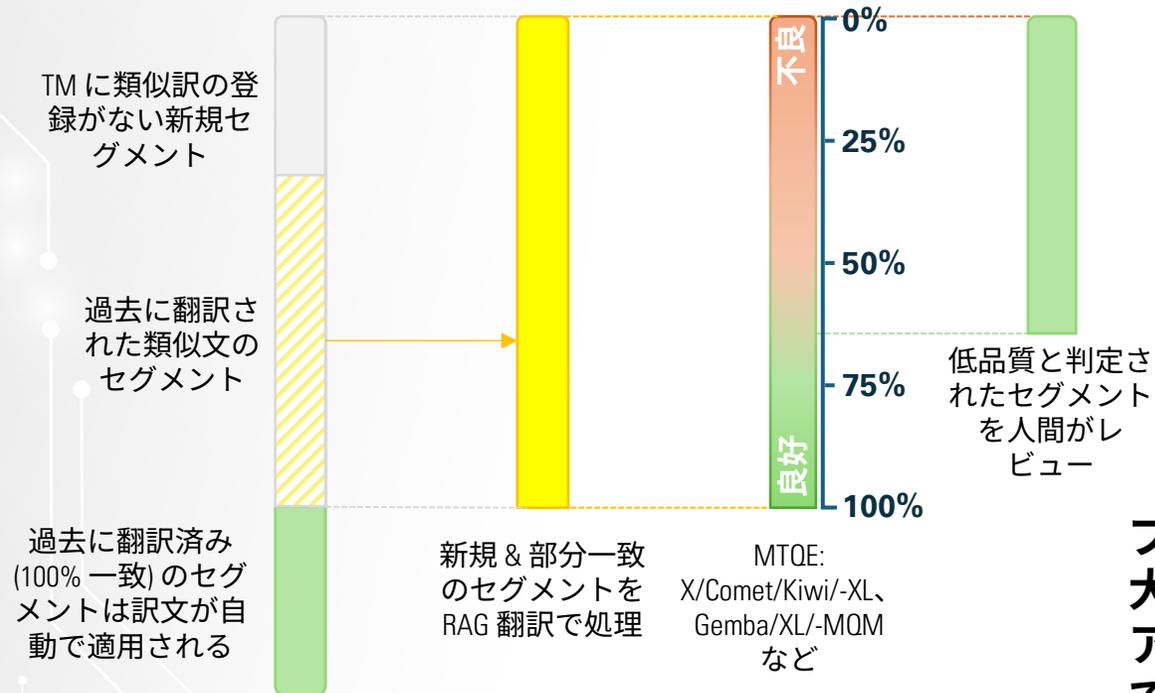


コンテンツ目標の定義

コンテンツ目標の達成



# 標準的な最先端の AI 翻訳ワークフロー: RAG + MTQE



さまざまな MTQE の手法には、それぞれに長所と短所 (速度、コスト、n-shot の例、精度など) があります。

実際の運用ワークフローでは、参照不要 (reference-free) 型のフレームワークしか使えません。一般的な参照不要型モデルの公表されている平均精度は約 85% です。

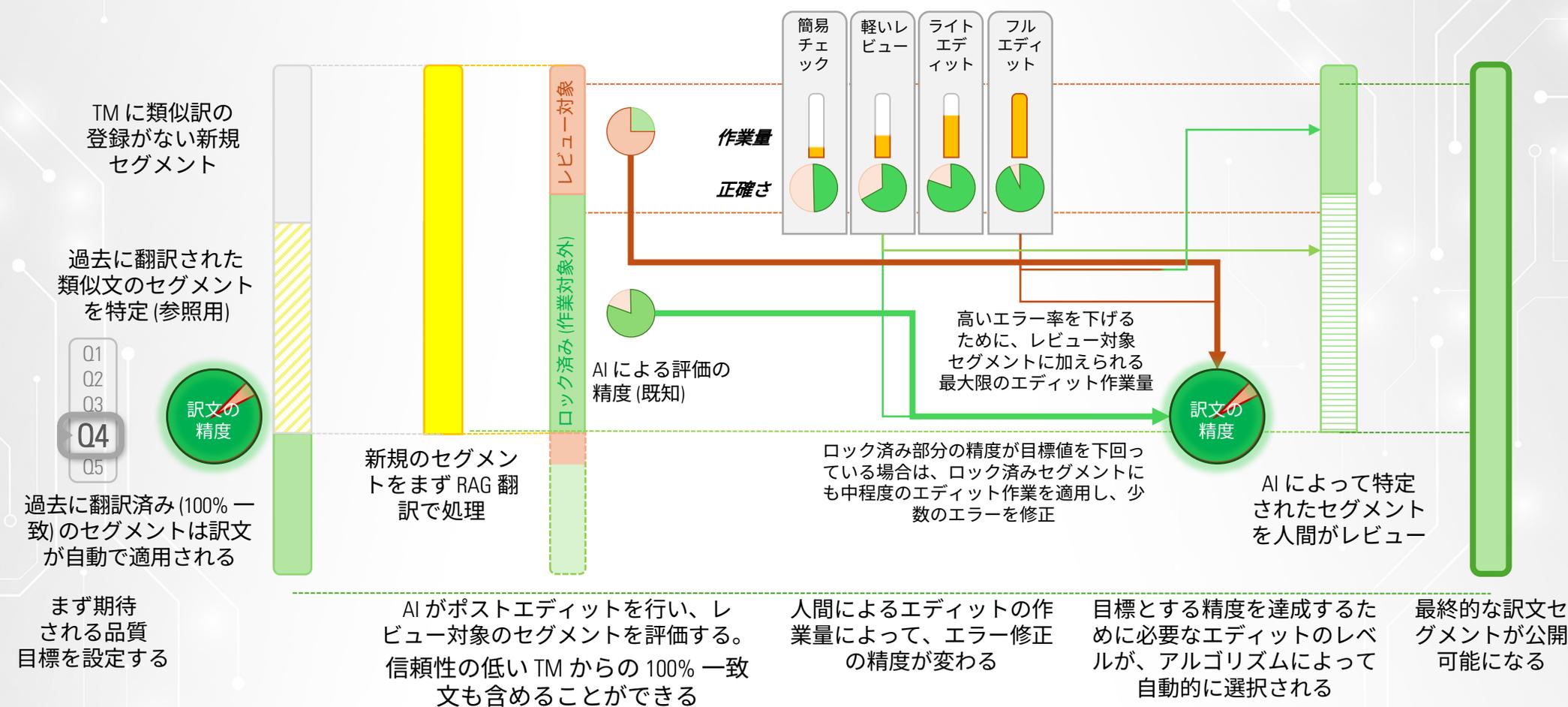
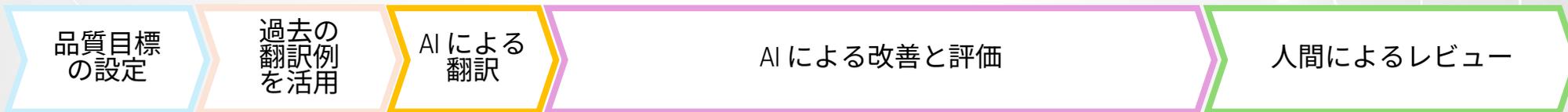
これらのモデルの公表されている精度評価は、タグなし・書式なしのテキストだけを対象としており、**実際の翻訳**で必要となる品質関連の要素 (用語集、スタイルガイド、品質目標、タグ付け方式) は無視しています。

RAG 翻訳は、原文処理の段階で翻訳ルールの遵守度を高めることで、こうした問題の一部を解決することができますが、その効果は限定的です (MT 品質の向上はおよそ 30% 程度)。

**プロフェッショナルな産業翻訳を実際に大規模に行うには、より高度に設計されたアプローチが必要になります。最新の LLM では、ソフトウェアの自動化フローに組み込んで活用できる認知的機能が提供されます。**



# 高度に設計された AI ファースト翻訳フローの詳細





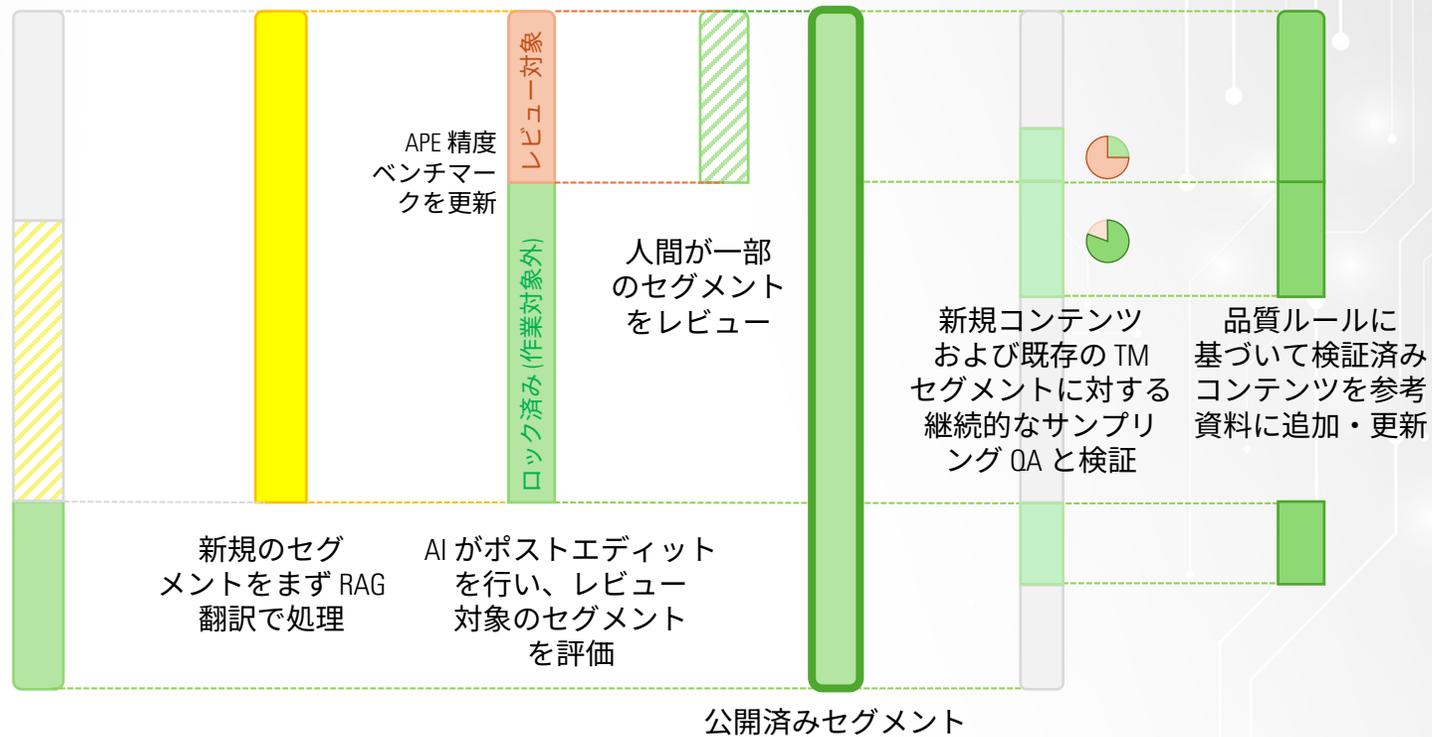
# 品質保証と継続的なベンチマーク評価



一定期間 100% のレビューを行ってジョブを処理し、初期の KPI データを収集して AI の性能を高める

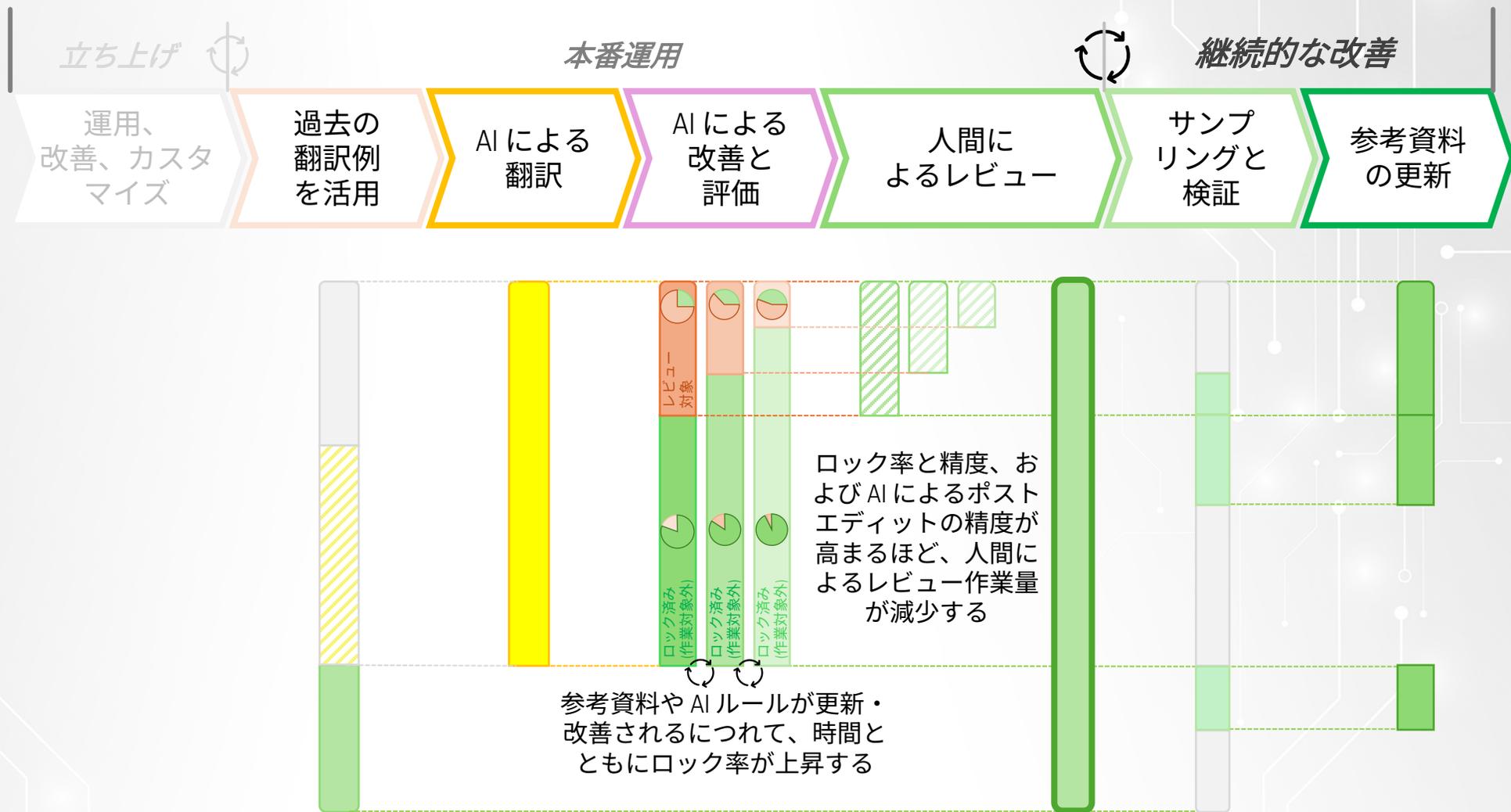
過去に翻訳された類似文のセグメントを特定 (参照用)

過去に翻訳済み (100% 一致) のセグメントは訳文が自動で適用される





# 継続的な改善とコストの削減

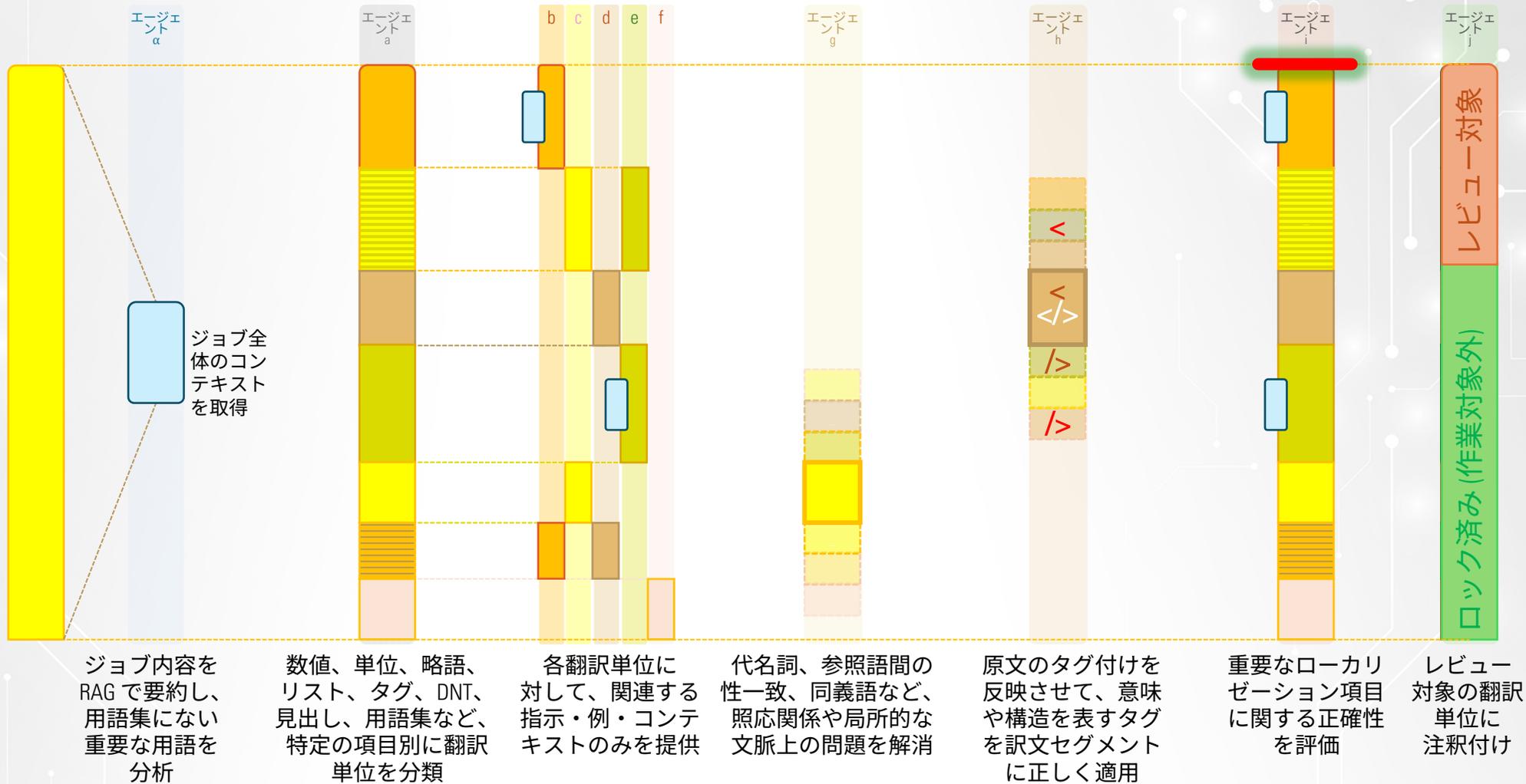




# 高度に設計された自律型 AI 翻訳の強化プロセス

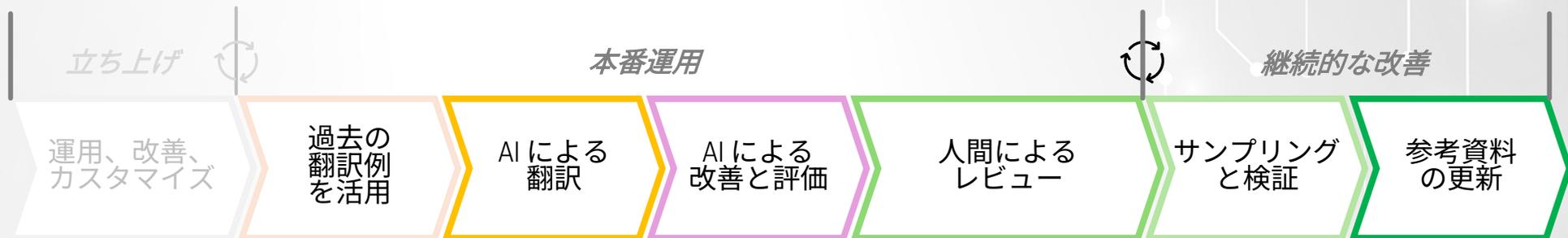
AI による  
翻訳

AI による改善と評価



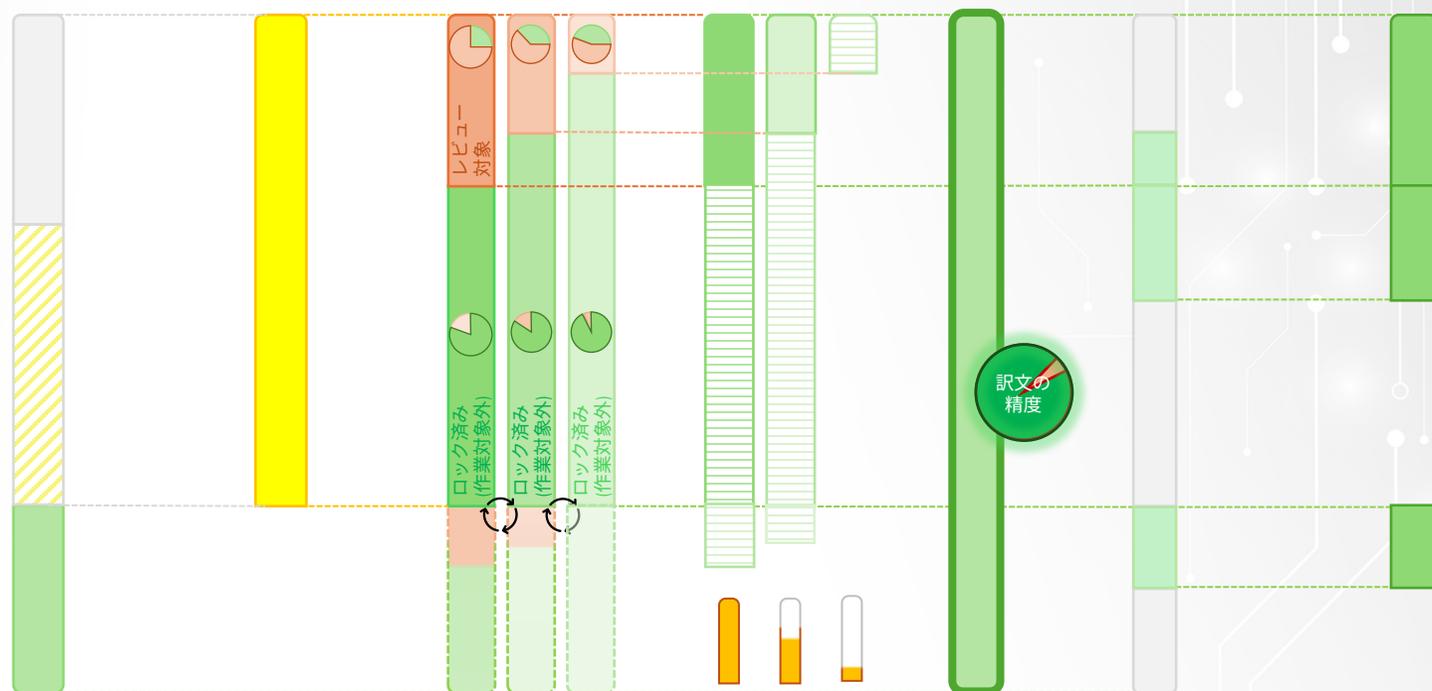


# 継続的な改善とコストの削減



コストを抑えて質の高い翻訳を行うという目標は、もはや「より良いMTエンジン/LLM」、あるいは万能の「より良いQA」を実装するだけで達成できるものではありません。そうしたテクノロジーの言語能力そのものが問題となる段階は、すでに過ぎているのです。

良質な翻訳を実現できるかどうかは常に、エラーの定義、コンテンツの対象オーディエンスとエンゲージメント目標、適用するスタイル規則などという**翻訳仕様**が**明確に整理され**、一貫して適用されるかにかかっています。





# 自動 LQA による翻訳の検証



自動 LQA では、任意のセグメント化されたバイリンガル XLIFF コーパスを入力元として使用できます。

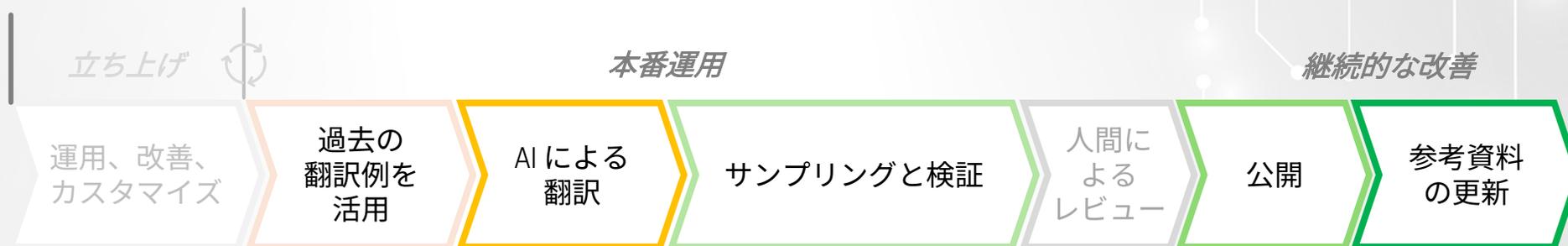
ほかの翻訳プロセスから公開の候補となるコーパスが出力され、そのコーパスに人間のエディットが常に必要になることは想定されない場合は、その公開前に自動 LQA を利用して、**まれに発生する失敗ジョブ**を拾い上げ、レビューに送ることができます。

このプロセスは、スピードが最優先され、初期公開後の修正も容易な、リアルタイムのオンライン公開に対して特に有効です。





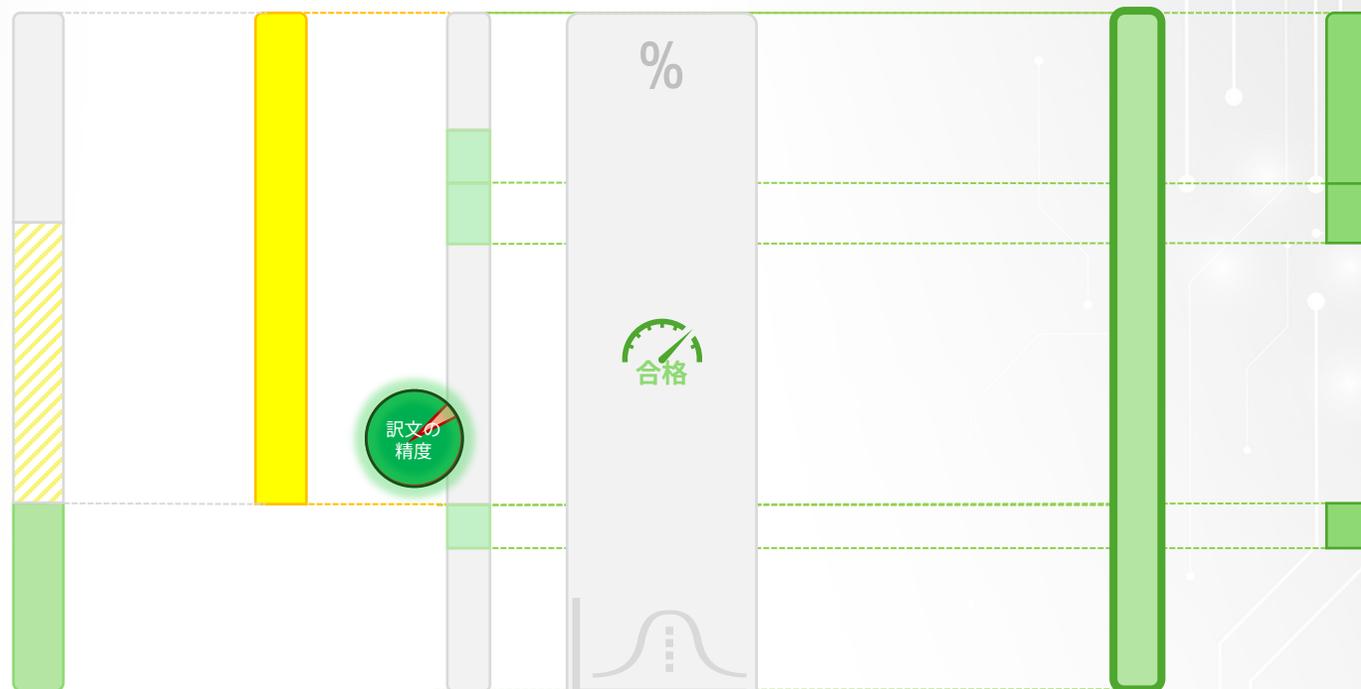
# 自動 LQA による翻訳の検証



自動 LQA では、任意のセグメント化されたバイリンガル XLIFF コーパスを入力元として使用できます。

ほかの翻訳プロセスから公開の候補となるコーパスが出力され、そのコーパスに人間のエディットが常に必要になることは想定されない場合は、その公開前に自動 LQA を利用して、**まれに発生する失敗**ジョブを拾い上げ、レビューに送ることができます。

このプロセスは、スピードが最優先され、初期公開後の修正も容易な、リアルタイムのオンライン公開に対して特に有効です。





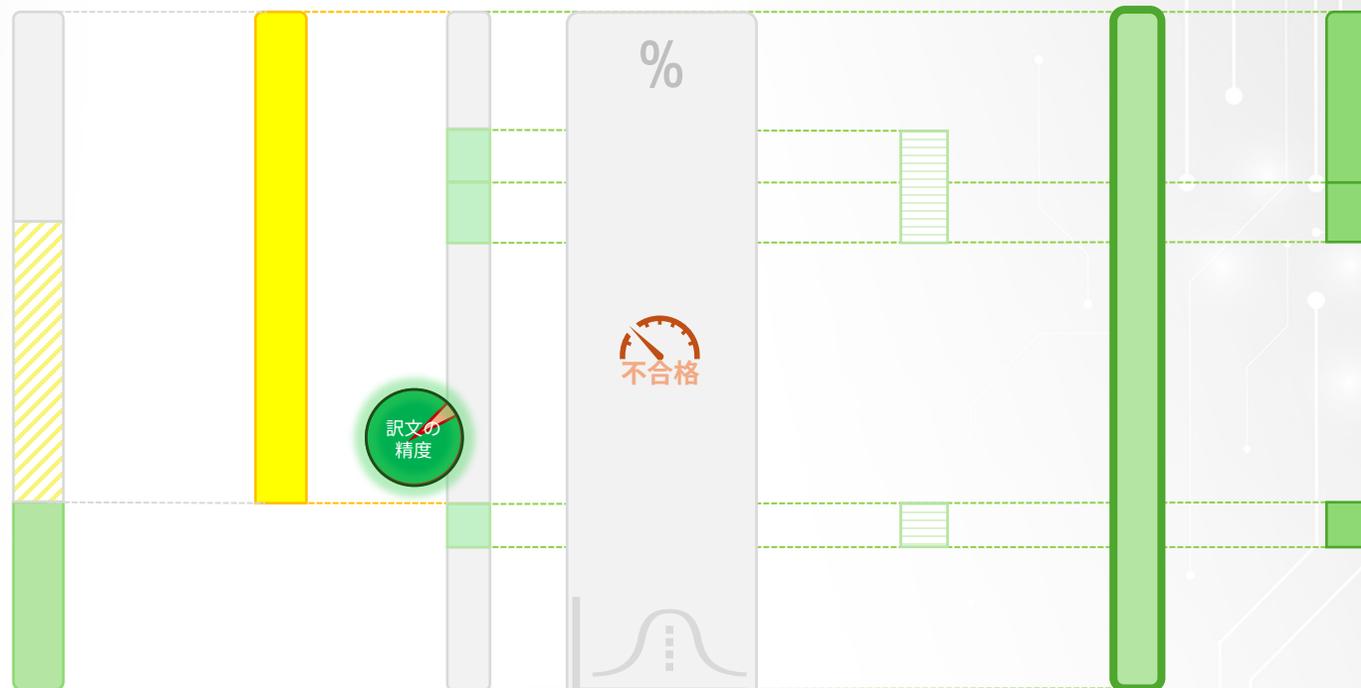
# 自動 LQA による翻訳の検証



自動 LQA では、任意のセグメント化されたバイリンガル XLIFF コーパスを入力元として使用できます。

ほかの翻訳プロセスから公開の候補となるコーパスが出力され、そのコーパスに人間のエディットが常に必要になることは想定されない場合は、その公開前に自動 LQA を利用して、**まれに発生する失敗ジョブを拾い上げ**、レビューに送ることができます。

このプロセスは、スピードが最優先され、初期公開後の修正も容易な、リアルタイムのオンライン公開に対して特に有効です。





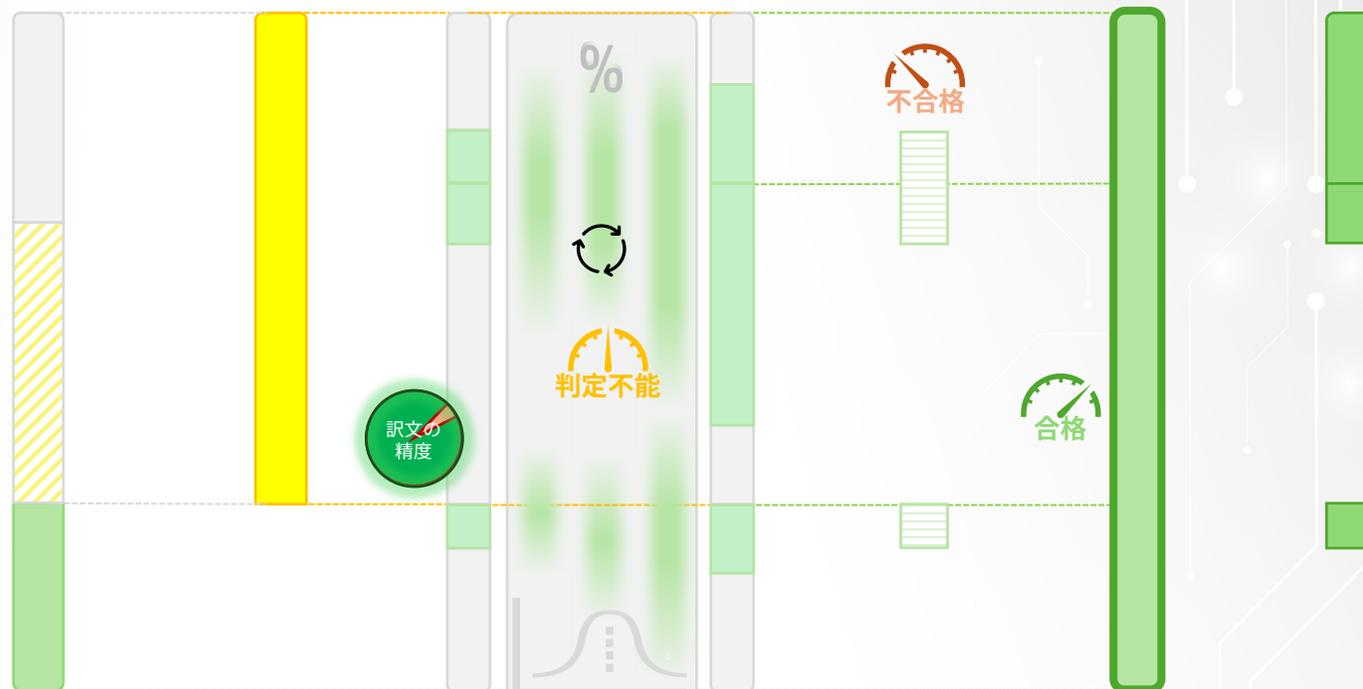
# 自動 LQA による翻訳の検証



自動 LQA では、任意のセグメント化されたバイリンガル XLIFF コーパスを入力元として使用できます。

ほかの翻訳プロセスから公開の候補となるコーパスが出力され、そのコーパスに人間のエディットが常に必要になることは想定されない場合は、その公開前に自動 LQA を利用して、**まれに発生する失敗ジョブを拾い上げ**、レビューに送ることができます。

このプロセスは、スピードが最優先され、初期公開後の修正も容易な、リアルタイムのオンライン公開に対して特に有効です。





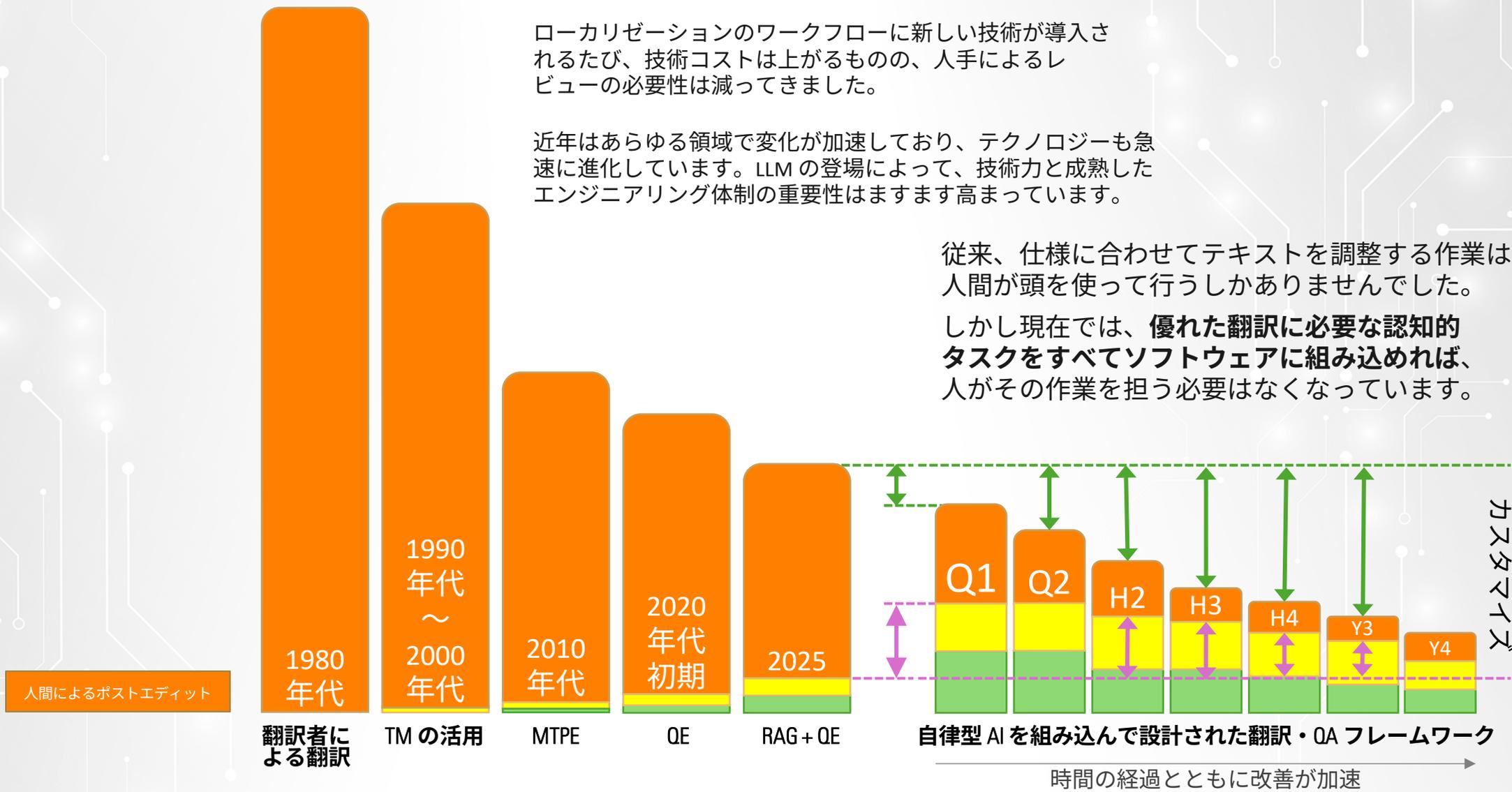
# LLM を活用した継続的な改善とコストの削減

ローカリゼーションのワークフローに新しい技術が導入されるたび、技術コストは上がるものの、人手によるレビューの必要性は減ってきました。

近年はあらゆる領域で変化が加速しており、テクノロジーも急速に進化しています。LLM の登場によって、技術力と成熟したエンジニアリング体制の重要性はますます高まっています。

従来、仕様に合わせてテキストを調整する作業は、人間が頭を使って行うしかありませんでした。

しかし現在では、優れた翻訳に必要な認知的タスクをすべてソフトウェアに組み込めれば、人がその作業を担う必要はなくなっています。



# Q&A

**LIONBRIDGE**

LIONBRIDGE

# ありがとう ございました

ライオンブリッジは障壁を打ち破り、架け橋を築くことで、  
世界中で新しいチャンスを生み出しています